



アクリル系リシン（砂壁状薄塗材ローラータイプ） ダイヤEPロール

JIS A 6909 外装薄塗材 E F☆☆☆☆

■ 標準施工仕様：一般外壁・新築下地・改装下地

工程	材料	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間		施工用具
					工程内	工程間	
1	素地調整	各新規・改修工事仕様に基づいて、素地調整を行ってください。					
2	ダイヤEPロール 清水	20kg 0~0.6㎡	0.5~0.6kg/㎡ 33~40㎡/缶	2	2時間以上	—	中毛ローラー

*施工について詳しくは別途仕様書を参照ください。
*間隔時間は、標準状態（23℃50%RH）での時間を示します。
*夏期では、温度、湿度によって間隔時間にかなりの差異がありますので注意してください。

■ 包装単位

ダイヤEPロール 20kg缶

■ 適用下地

コンクリート（打放し面、合板型枠面、メタルフォーム面、PCパネル面）、モルタル（刷毛引き面、コテ押し面）、ALCパネル*、コンクリートブロック*、石膏ボード・石膏プラスボード、木毛セメント板*、木片セメント*、石綿スレート、けい酸カルシウム板*、バルブセメント板*、合板*
（*印=ダイアカチオンファイラー処理 ※印=ダイヤシーラーエポ等の溶剤系下塗材を御使用下さい。）

■ 施工・保管上の注意点

- 【塗装面の調整（新設）】
- ①素地に付着している塵、汚れ、油脂類、レタンス等を完全に除去して下さい。
 - ②セメント質下地は、表面の含水率10%以下（pH10以下）になるまで放置して下さい。下地モルタルは十分に乾燥させて下さい。モルタルの乾燥期間は、夏期で1週間、冬期で2週間以上必要です。コンクリート下地は、夏期で2週間、冬期で3週間以上乾燥が必要で、雨上がり後は、均一に乾いてから施工して下さい。
 - ③雨上がり後は、均一に乾いてから施工して下さい。
 - ④PCパネル、現場打ちコンクリートの場合
 - 1) 豆板、木コン、破損箇所、不陸などは、ダイアカチオンファイラー、セメンシャス#2000、セメンシャス#2500等の下地調整材を使用し、補修して平滑にして下さい。
 - 2) 表面が緻密でレタンス層がある場合は、レタンスを除去し、ダイヤシーラーエポをご使用下さい。
 - ⑤ALCパネルの場合
ダイヤカチオンファイラーを塗布して下さい。
- 【塗装面の調整（新設・改修共通）】
- ①屋上防水、目地排水管など水の浸透が予想される箇所については、事前に十分点検し適切な処置をして下さい。
 - ②使用シーリング材の種類により塗膜のひび割れ、剥離、ブリード等の異常を生じる場合があります。あらかじめ塗装仕様を確認して下さい。
- 【塗装面の調整（改修）】
- ①各現場の改修工事仕様に基づき劣化部分の補修や既存塗膜の処理（ケレン、清掃、高圧水洗浄）などを行なって下さい。
 - ②脆弱層が厚い場合には、取り除いてから施工して下さい。
 - ③チョーキングは、サンダー、ワイヤブラシ等でケレン後、高圧洗浄で除去して下さい。
- 【材料の保管・管理】
- ①開缶した材料は必ず密封し、直射日光や雨露を避けて保管して下さい。
 - ②材料の保管は凍結や温度上昇による変質を避けるため、気温5~35℃で、密封のまま直射日光を避け、屋内に貯蔵して下さい。長時間貯蔵したものは十分攪拌し、変質の有無を確認して下さい。
- 【施工】
- ①気温5℃以下、降雨、降雪、強風下および湿度85%以上の場合、または予想される場合には施工を避けて下さい。また作業後に、降雨、降雪の恐れがある時は雨（雪）養生をして下さい。
 - ②材料は使用前に十分攪拌し、均一にしてから使用して下さい。配合割合を誤りますと、成膜不良や本来の塗膜性能が発現できませんので注意して下さい。
 - ③材料は付着乾燥しますと取れませんが、完全に養生をして下さい。塗付面周辺の養生を完全に行ない、施工時建物の周辺に飛散しないように注意して下さい。また、塗付後は、速やかに養生紙や養生テープを取り除き清掃して下さい。乾燥後、養生テープを取り除く場合はカッターを入れて下さい。そのままだけ取り除きますと壁が残りバリとなります。
 - ④乾燥時間は、温度、湿度、および、風等により差異を生じます。
 - ⑤コンプレッサーを使用する場合は必要十分な能力以上のものをご使用下さい。
 - ⑥下地は十分に乾燥してから施工して下さい。乾燥不十分の場合、色ムラ、剥離等の生じる原因となります。
 - ⑦施工にあたっては、同一方法で、入り隅、出隅等見切りの良いところまで仕上げして下さい。同一壁面途中での塗り継ぎは色違いやムラの原因になります。
 - ⑧施工後24時間以内に降雨、結露等があった場合、水分の影響で白化や色ムラが発生し、壁面に残る場合があります。
 - ⑨本施工に入る前に試験塗りをし、施工のタイミング、粘度、塗布量などをチェックし、仕上がりムラにならないよう確認して下さい。
 - ⑩希釈する場合、希釈量を厳守して下さい。薄過ぎるときれいに仕上らないことがあります。特に濃色や下地の吸い込みがない場合等は少なめに希釈して下さい。
 - ⑪常に結露が発生する地域・時期での施工は避けて下さい。
 - ⑫安全衛生上の注意事項については、容器の表示も合わせてご参照下さい。
 - ⑬一度に厚く塗ると色分けや発泡が生じることがあるため、間隔時間を守り、規定回数以上に分けて塗布して下さい。
 - ⑭塗装下地の差によって、塗布量が変わる場合があります。
 - ⑮フッ素や無機系などの難接着塗膜処理がされている下地については、付着性が十分に発揮されないおそれがありますので、ご使用の場合は最寄の営業所へご相談下さい。

- ⑯可使時間及び塗装間隔は厳守して下さい。層間密着性の低下の原因となります。
 - ⑰使用した器具類は直ちに洗浄して下さい。放置しますと硬化して洗浄することが難しくなります。
 - ⑱濃色や原色に近い色の場合、強くこすると色が取れる場合があります。
 - ⑲下地の吸込ムラにより色彩のムラが発生する場合があります。
 - ⑳シーラーと上塗りを混合するとゲル化する恐れがありますので、容器・刷毛・ローラーなどの共用は避けて下さい。
 - ㉑上塗材を施工する場合は、下塗り後の乾燥状態を確認して下さい。
 - ㉒既存塗膜の劣化が著しい場合、また既存塗膜がセメント系の場合には高圧水洗後にはダイヤシーラーエポまたはダイヤワイドシーラーを塗布して下さい。
- 【材料の保管・管理】
- ①開缶した材料は必ず密封し、直射日光や雨露を避けて保管して下さい。
 - ②材料の保管は凍結や温度上昇による変質を避けるため、気温5~35℃で、密封のまま直射日光を避け、屋内に貯蔵して下さい。長時間貯蔵したものは十分攪拌し、変質の有無を確認して下さい。
- 【安全衛生上の注意】
- ①取扱いは、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて防塵マスク、保護メガネ、保護手袋を着用して下さい。
 - ②取扱いは、手洗い及びうがいを十分に行なって下さい。
 - ③子供の手の届かない所に保管して下さい。
 - ④作業中・作業後は十分換気を行って下さい。
 - ⑤廃塗材、廃容器、洗浄水等は、産業廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
 - ⑥目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
 - ⑦誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
 - ⑧中身を使い切ったから廃棄して下さい。
 - ⑨皮膚に付着した場合には、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときには医師の診断を受けて下さい。
 - ⑩臭い、蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。
- 【その他】
- ①その他、詳しくは最寄の各営業所へお問い合わせ下さい。
 - ②施工に際し、施工・管理上の詳細な注意点については仕様書等をご確認ください。
 - ③施工に際し、安全衛生上の詳細な注意点については安全データシート（SDS）をご確認ください。

製品・工法に関するお問い合わせはホームページのブランドサイト <https://www.dia-dyflex.jp/> にてご確認のうえ各地域のオフィスまでお願い申し上げます。

2023年4月1日よりシーカグループの株式会社ダイフレックスは日本シーカ株式会社に統合され、新たに **シーカ・ジャパン株式会社** としてスタートいたしました。

